

クラウドファンディングで制作資金募り、ロコミで大ヒット記録更新中！  
映画『この世界の片隅に』

片渕須直監督の“ものづくり”論

『未来授業』2月20日(月)～23日(木) 19:52～20:00 放送

『未来授業 SUNDAY CLASS』2月26日(日) 5:30～6:00 放送 ※総集編

日本が世界に誇る「知のフロントランナー」を講師に迎えて、未来を生き抜く智恵を探るプログラム「未来授業」では、2月20日(月)～23日(木)、26日(日)の放送回に映画『この世界の片隅に』片渕須直監督を迎えます。昨年11月12日に公開の映画『この世界の片隅に』がロングヒット、今年に入っても拡大上映を続けています。そんな片渕須直監督の考える「ものづくり」とは？2月20日(月)からの放送を、どうぞ楽しみに。

◆「実写でもCGでもない、アニメだからこそ描ける”戦争中の日常”」(片渕監督)



昨年11月12日に公開の映画『この世界の片隅に』は、今年に入っても上映館を拡大し、観客動員数は150万人を超え、興行収入も20億円を突破。映画専門雑誌「キネマ旬報」が選ぶ2016年のベスト・テンで1位に選ばれるなど大ヒットとなりました。作品そのものはもちろん、「ロコミ」によるヒットであること、そしてもうひとつ特徴的なのが、クラウドファンディングで3374人のサポーターから制作資金を集めて作られたことも話題になりました。

アニメーションで描くことにとことんこだわった理由について片渕須直監督は「戦争中、といっても数年に渡る長い時間。そうした日々の間に人々の日常はどう変化していったのか。当時の日記や新聞記事、写真などをできるだけたくさん見ました。すると、その頃に生きていた人たちは僕らとそう変わらなかったこともわかりました。描きたかったのは”当時も今と”地続き”であったこと”。主人公・すずさんの日々の暮らしをひとつひとつ丁寧に描くことで、その延長線上にある、空襲で焼けた呉や、軍艦がいなくなった軍港が浮き彫りになるのです。—こうした細やかな日常描写はアニメーションだからこそ描けるのではないのでしょうか」と力説しました。

さらに、「主人公・すずの声を演じた女優・のんについて」、「ものづくりについて」、「若者へのメッセージ」も。いわゆるヒットの方程式にとらわれない、片渕須直監督ならではの「ものづくり」への視点とは？

2月20日(月)からの放送を、どうぞ楽しみに。

《番組概要》

◇タイトル:『未来授業』(月～木)19:52～20:00 放送)

『未来授業 SUNDAY CLASS』(日 5:30～6:00 放送)

◇放送局:TOKYO FM

◇内容:TOKYO FMをはじめとするJFN38局が毎年開催している、大学生を対象としたインタラクティブ型公開授業「FMフェスティバル 未来授業～明日の日本人たちへ」のレギュラー番組。日本が世界に誇る「知のフロントランナー」を講師に迎えて、未来の日本人たちへ送るアカデミックな授業をお届けします。

◇提供: NEC、川口技研 ◇ホームページ: <http://www.tfm.co.jp/podcasts/future>

【映画情報】

全国拡大上映中！

『この世界の片隅に』

監督：片渕須直、原作：こうの史代、音楽：コトリンゴ、制作：MAPPA 声の出演：のん 細谷佳正 稲葉菜月 尾身美詞 小野大輔 潘めぐみ 岩井七世 / 澁谷天外)

全国拡大！上映中！

18歳のすずさんに、突然縁談がもちあがる。良いも悪いも決められないまま話は進み、1944(昭和19)年2月、すずさんは呉へとお嫁にやって来る。呉はそのころ日本海軍の一大拠点で、軍港の街として栄え、世界最大の戦艦と謳われた「大和」も呉を母港としていた。見知らぬ土地で、海軍勤務の文官・北條周作の妻となったすずさんの日々が始まった。夫の両親は優しく、義姉の径子は厳しく、その娘の晴美はおっとりしてかわいらしい。隣保班の知多さん、刈谷さん、堂本さんも個性的だ。配給物資がだんだん減っていく中でも、すずさんは工夫を凝らして食卓をにぎわせ、衣服を作り直し、時には好きな絵を描き、毎日のくらしを積み重ねていく。1945

(昭和20)年3月。呉は、空を埋め尽くすほどの数の艦載機による空襲にさらされ、すずさんが大切にしていたものが失われていく。それでも毎日は続く。そして、昭和20年の夏がやってくる――。



© こうの史代・双葉社/「この世界の片隅に」製作委員会